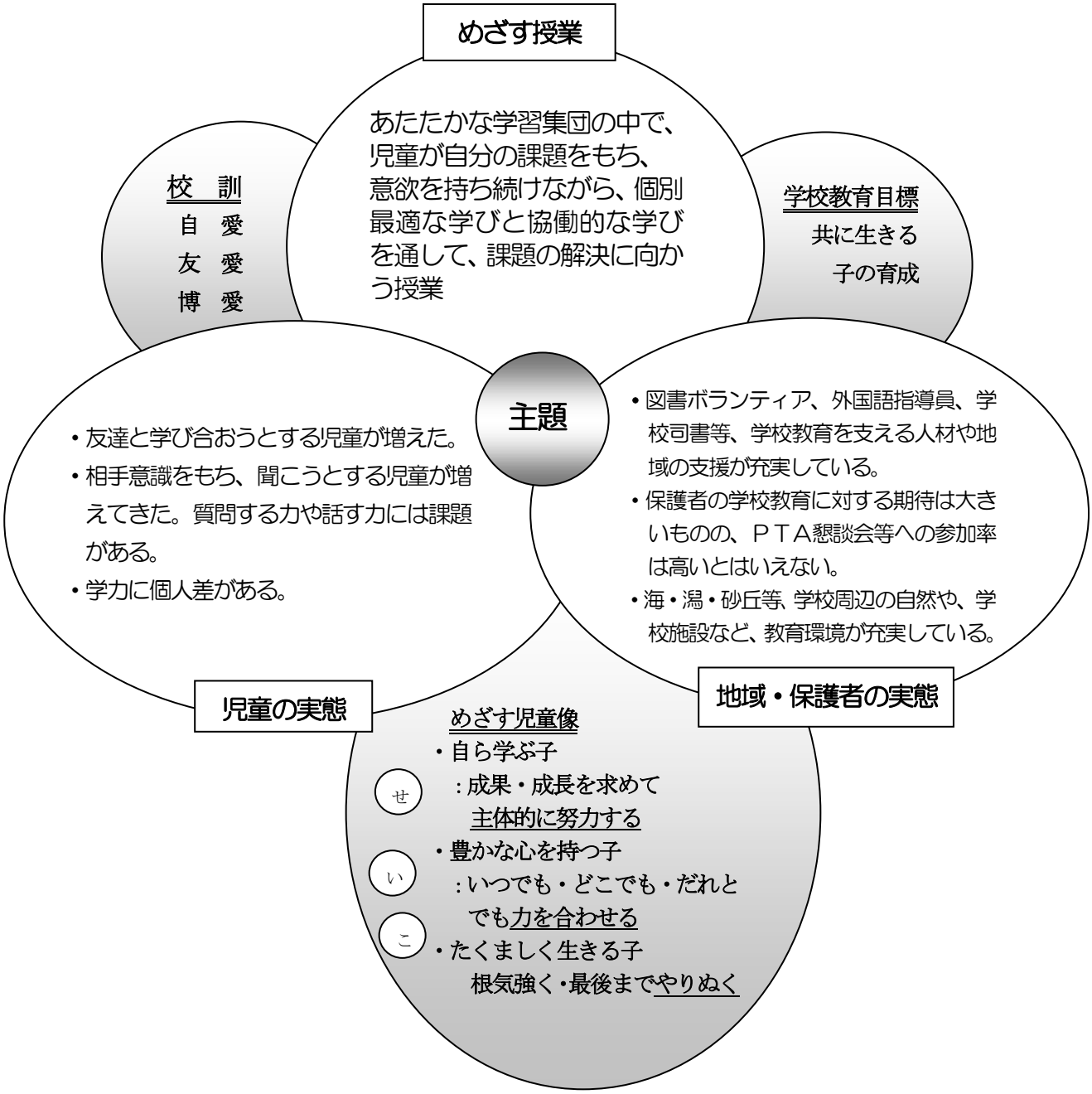
1. 研究主題

自ら考え、学び合う子の育成

～子供主体の授業づくりをめざして～

2. 研究主題・副題設定の理由



本校が考える**「自ら考え、学び合う子」**とは、

「自ら考える子」…主体的に自分の課題を設定し、既習を活用したり情報を収集したりして解決に向けて考える子
「学び合う子」…主体的に友達と多様な考えを交わしながら、個人や集団でより良い考えを形成できる子

である。このような学びへの姿勢・能力を、これからの時代を生きる子供達一人一人に獲得させたい。

本校では、令和２年度から研究主題を「自ら考え、学び合う子をめざして」とし、副題を「わかった、できたと実感できる授業づくり」として、実践を積み重ねてきた。令和６年度からは、研究主題を「自ら考え、学び合う子の育成」、副題を「子供主体の授業づくりをめざして」に変更し、研究を進めてきた。その際、研究の視点として重点①②を掲げ、取り組んできた。

重点①【学びの土台にのせ、意欲に火を付ける工夫】

重点②【考えを広げたり、深めたりする工夫】

その成果と課題として、以下の点が挙げられる。

① 学びの土台にのせ、意欲に火を付ける工夫

様々な教科・学年で、導入の工夫が見られた。児童自身に近づける（アンケート・日常生活に近い問題設定・自分に合うねらい設定）、魅力的で分かりやすいゴール設定（行事と関わらせる・図鑑作り・教師のモデル）、児童の気づきを生かす（資料提示）等の導入をすることで、児童の「考えたい」「やってみたい」という気持ちを高め、意欲に火を付けることができた。また、学習の流れを提示することで、児童が見通しをもって主体的に動けることも確認できた。

一方で、導入の仕方は吟味しなければならない。ゴールの姿を明確にすると児童の思考が限定的になったり、導入で本時のキーワードを示すと新たな気づきが広がりにくかったりすることもあると分かったからである。また、学習への意欲がもてても、既習が身に付いていなかったり、児童が教材を理解できていなかったりすると、学びの土台にのせることはできない。高学年や３年算数では、既習の掲示やオクリンクで送るなどの工夫をして学習を定着させることにより、児童が安心感をもち、主体的に学ぼうとしていた。２年音楽では、楽しみながら音の高低を感じられるように体全体で音階を表すなど、児童の実態に合わせて知識技能の習得を図っていた。

授業を構想する際、児童が「学びの土台」にのってゴールに向かっていけるように、どこまでを身に付けさせておき、本単元や本時では何を考えさせ、理解させていくのかを見極める必要がある。その上で、必要な手立てを打ち、意欲を喚起する導入の工夫を今後も続けていく。

② 考えを広げたり、深めたりする工夫

子供主体の授業をめざして、児童同士で学び合う場の設定が多く見られた。５年理科では自由進度学習を取り入れたり、３年算数では全体交流をなくしたりするなど、教師の出場を減らして積極的に児童に任せる場を設けた。児童だけで学びを進めていくために、高学年では、児童が考えをもつための手立てや意欲を高める手立て、学びをつなげるための教師の声かけ等が必要であると分かった。また、学び合いの中で、問いの工夫をすることで、児童に考えさせたいことを焦点化したり、抽象的→具体的な見方にしたりできた。低学年では、ＩＣＴを有効に活用して児童同士が学び合っていた。タブレット端末に自分の考えを書いたり、友達の考えを画面共有で見たり、実際に画面を見て話し合ったりする中で、分かるようになったり、新しい考えに出会ったりすることができた。また、画面の見せ方を一工夫することにより、学ばせたいことに注目させたり、気づきの共有を図ったりできることが分かった。

一方で、学び合う場の設定により「学びが深まったか」という点では、疑問視する声が聞かれた。学び合いの場で、児童が主体的に活動しているように見えても、教科の見方・考え方をふまえた共通の軸に沿って思考していたか、ねらいに向かって学びが深まっていたかは明確ではなかった。本単元や本時で変容が見られたかについても、検証の余地がある。

これらの成果と課題をふまえ、今年度は「学びの深まり」を求めて、研究を進めることとする。学びが深まると、児童には変容が見られる。変容を自覚した時、児童は自らの学びや成長に手応えを感じるであろう。また、教科の本質的な楽しさを知り、より主体的に学びに向かっていくであろう。この変容をどう表出させ、どのように見取るのかについても、今年度は追究していく。

3. 研究の仮説

学びが深まり、自分の変容を感じられるような学び合いが実現できたならば、児童の「学びたい」という意欲が持続し、子供主体の授業に近づけるであろう。

4. 研究の重点と具体的な取組

目指すのは、「児童が『学びの深まり』を感じられる学び合い」である。

「深い学び」とは「各教科等の特質に応じた『見方・考え方』を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に想像したりすることに向かう」ものである。つまり、共通の軸に沿って思考していることが不可欠である。

その実現のために、今年度は、重点「考えを広げたり、深めたりする」工夫に焦点化して、指導の充実を図る。重点においては、どのような児童の変容をめざし、どのように表出させるのかについても明らかにしていく。

【重点】考えを広げたり、深めたりする工夫

・児童の思考の把握し、考えを深める働きかけ　・意図的な話し合いの設定、形態　・ICT の活用
・「聞きたい」「知りたい」と思えるしかけ、話し合いに目的や視点をもたせる
・変容を表出させるふり返りの工夫・ふり返りの場の保障　　など

研究を推進するための取組として、日々の授業では、本単元における授業構想を週案の授業づくりシートに明記する。この単元で育てたい教科の見方・考え方をもとにし、単元を貫く共通の軸を設定する。その軸にのって児童が考えを深めたり広げたりできるように、どのような手立てを打っていくのか具体的に書く。授業後は、その手立てが有効であったかをふり返る。ふり返る視点は「変容があったか」である。児童に望ましい変容があった場合は何が有効だったのか、また、なかった場合は改善策を記録して、次の実践に生かしていく。また、研究授業では、指導案に重点を明記し、授業に臨む。参観者は、「『学びの深まり』を感じられる学び合いになっていたか」「児童に変容が見られたか」といった視点で授業を参観し、整理会で話し合う。これらの取組を通して見えてきた成果と課題をタイムリーに全体共有することで、有効な方策を積み上げていきたい。

学び合いを支えるために、「やさしい話し方・聴き方」の取組も継続して行っていく。今年度も生徒指導と連携し、相手意識をもった思いやりのある話し方や聞き方を大切にしていく。その上で、考えを広げたり、深めたりするために、意見を比べるなど思考を伴う話し方や聞き方も育成していく。

5．学力・学習を支える基盤、指導改善を進める体制をつくるための具体的取組

（1）基礎的な学力・表現力の向上・定着を図る

① 朝学習を活用し、基礎学力の定着・習熟、課題の克服を図る

・8:10～8:25の15分間、担任の指導のもと、取り組む
・学習課題に取り組んだ後は、速やかに解答・解説をし、フィードバックを行う

<table>
<tr><th>曜　日</th><th colspan="3">内　　容</th></tr>
<tr><td>月</td><td>読　　書</td><td colspan="2">・読書　年齢に合った読書のすすめ</td></tr>
<tr><td rowspan="2">火</td><td rowspan="2">国語・算数</td><td>基礎学力向上のための課題（学年・学級裁量）
・繰り返し学習によって、習熟・定着を図ることが必要な課題
・家庭学習の成果を検証する小テストなどの実施
（国語）漢字、ローマ字、ことわざ、四字熟語、作文、視写　など
（算数）四則計算、比例数直線図にまとめる、作図　など
活用力向上のための課題
（学力向上プログラム、各学力調査過去問題等を活用）</td><td rowspan="2">月に１度は国語と算数の補強問題を行う
１週目
２週目（火）　国語（実施）
（水）　国語（解説）
３週目（火）　国語（同じ問題を実施）
（水）　個別指導
４週目

※１週目や３週目の（水）４週目に学級裁量で算数にも取り組む</td></tr>
<tr><td>水</td><td>国語・算数
理科・社会</td><td>弱点補強問題
（学力向上プログラム、各学力調査過去問題、スマートスクールネット等）
基礎学力向上のための課題（学年・学級裁量）
・繰り返し学習によって、習熟・定着を図ることが必要な課題
・家庭学習の成果を検証する小テストなどの実施</td></tr>
<tr><td>木</td><td>読　　書</td><td colspan="2">・読書
・ＡＬＴ、外国語指導教員による外国語の絵本や国際理解の本の読み聞かせ
・読書ボランティアの方や教員による本の読み聞かせ</td></tr>
<tr><td>金</td><td>読解力
思考力アップ</td><td colspan="2">・全校で購入したドリルを実施し、読解力、思考力の向上をねらう。</td></tr>
</table>

② 家庭との連携を深め、よりよい家庭学習習慣の定着を図る

・10分×学年（低学年は20分）の学習時間の定着を目指し、学習時間に見合う課題を工夫
・学年に応じて、自己調整力をつけることができるように、課題の出し方を工夫
・家庭学習・計算・漢字ステップアップ週間の設定
　漢字（各学期１回）、計算（１・２学期 各１回）、それぞれ１週間ずつ全校一斉に設定
　漢字の書き取り・基礎的な四則計算の学習、１週間の家庭学習取組時間を記録して可視化
・学習だより「CATCHBALL」など家庭学習の参考になる資料の発行
・家庭学習の主体性を高め、学力の向上を図るための「自学ノート」指導の充実

③ 読書活動の充実を図る

・朝読書（毎週月曜・木曜）の設定
・図書室イベントの開催
・地域ボランティアによる「お話会」、外国語による読み聞かせ「イングリッシュ・タイム」
・家族読書の日の設定（GW・冬休みの家族読書）

④弱点克服の取組を実施

・重点項目（評価規準に赤字で掲載）を学年会等で事前に確認し、教師用教科書（朱書き）に付箋を貼る
（付箋等に弱点ポイント、苦手な問題の番号等書き込む）授業で実践し、定着を図る

・朝学習や授業で克服を図る
弱点の補強、繰り返し学習、学力調査問題の活用

・到達目標に達していない児童への個別指導や補充授業（木曜放課後「さよならタイム」・長期休業中 等）

⑤ノート指導の充実

レベルアップを目指す

・ノートの書き方についての共通指導

・より良いノート作りのためのノート（オクリンク）掲示（年５回）

５月　　丁寧で見やすいノート

７月　　課題にぴったりのまとめが書かれているノート

１０月　友達の名前や考えが表れたノート

１２月　根拠や理由をもとに自分の考えが表れているノート

２月　　「前は～だったけど、今は～になった」学びの変容が自覚できるノート

（２）教師の指導力の向上を図る

①授業研究の実施

・研究授業には外部講師を招聘。研究の重点を中心に協議を行う

・授業整理会後の成果と課題を終礼等で２週間以内に共有し、明確になったことを共通実践に生かす

・日常的に授業研究を進められるよう「授業づくりシート」を用いて、研究の重点を意識して取り組む

・年に２回、相互授業参観週間を設定する

②校内職員研修の実施

・全職員が参加し、組織的に実施
（研究の重点の取組を紹介し合う、研修の成果を報告する、分析交流　など）

（３）よりよい実践を積み重ねていくための検証方法

検証問題や児童の姿、アンケート等などを活用して検証を行い、その結果をもとに、様々な取組や研究推進体制の改善を図る

① 単元末テスト・教科等の資質・能力育成シート（旧学力向上プラン検証問題）

・児童の正答率・解答状況を検証して課題を把握し、改善につなげる

・児童の課題を全体共有し、学力向上プラン検証問題を選定。学期末の結果を評価し、指導に生かす

②漢字・計算ステップアップ週間

・計　　算 … 同一問題に取り組ませ、取組の前後での正答率・タイムの変化で検証

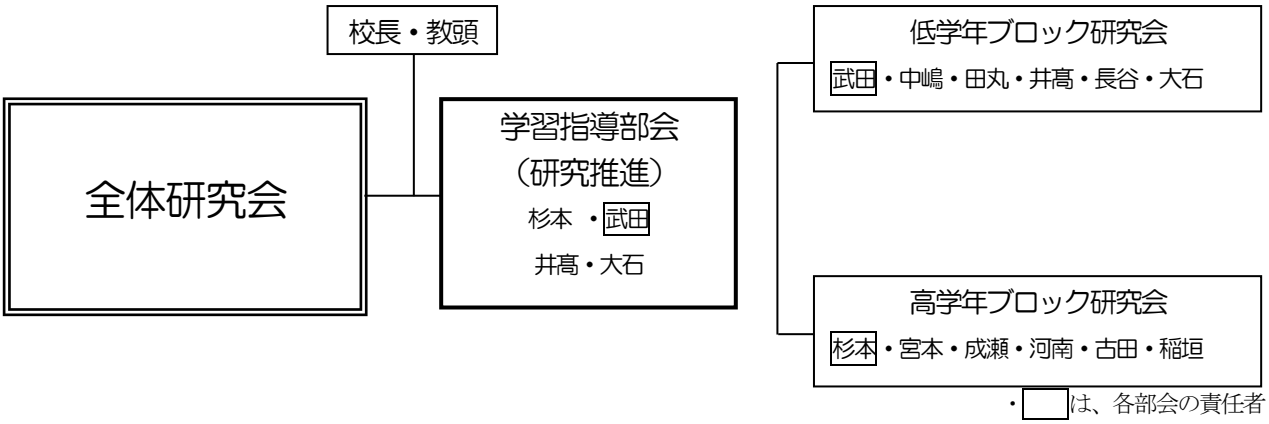
・漢　　字 … 「まとめのテスト」を実施し、正答率で検証

満点賞を表彰
表彰状作成＆学習だよりに記載

② 学校評価、児童・教職員アンケート

・研究の重点にかかわる点について項目を設定し、児童・教職員評価の数値の変化で検証

６．研究の組織と活動内容



・低・高学年の「ブロック研究会」を組織する
・ブロック研究会に、学級担任、級外が所属する
・全員が、校内研究授業を１回ずつ行う
・各ブロック各１回全体研究授業を行い、校内研究の視点・重点の具体化について、共通理解の場とする
・研究授業では、事前研究会・事後研究会をもつ。また、外部講師を招聘し、指導・助言をいただくことで研究の充実を図る
・全体研究授業は、全職員が参加する。ブロック研究授業には、当該ブロック研究会に所属する職員が参加する。なお、他ブロックに所属の職員も、各研究授業を積極的に参観するように努める
・研究授業前の終礼で、授業者は授業のねらいや手立てについて話し、参観を呼びかける
・事後研究会の後は２週間以内に考察を職員に配布し、成果と課題について全体共有する

↓

7. 研究構想図（清湖小授業スタイル）

自ら考え、学び合う子の育成

児 童

・なぜだろう？
・どうすればできるのかな？
・考えてみたい、やってみたい。

・前に学んだことを使ったら解決できないかな。
・自分一人では、分からないな。
・考えはもてたけど、理由がはっきりしないな。
・友達の考えを聞きたいな。

・自分と同じかな？違うかな？
・どうして？どこから？
・どういうこと？くわしく教えて。
・なるほど。たしかに。
・言いたいことはつまり～ということ？
・理由が、はっきりしてきた。
・話し合って、分かってきた。できそうだ。
～学びの深まりを実感～

・課題に対する答えがわかった。
・やり方が分からなかったけど、自分の力でできたよ。
・〇〇さんの説明で、分かるようになった。
・次はこれを考えてみたい。

子供主体の授業

学ぶ意欲が持続

課題の設定

自1 **個**

そうか！なるほど！

集団

自2 **個**

集団

学び合ったから、より良い考えがもてたよ！

学びの振り返り

個別最適な学びと協働的な学びの一体化

教 師

① 付けたい力と共通の軸を明確にする
② 個人で、集団で、どのように学ばせるか考える
③ 学びの深まりをどのように生み出し、表出させるか考える

学び合いを充実させる指導の工夫【令和7年度 重点】

考えを広げたり、深めたりする工夫
・児童の思考の把握し、考えを深める働きかけ
・意図的な話し合いの設定、形態
・ICT の活用
・「聞きたい」「知りたい」と思えるしかけ、話し合いに目的や視点をもたせる
・変容を表出させるふり返りの工夫・ふり返りの場の保障　など

学びの深まりを実感するための場の設定

・適用問題に取り組む
・教科の用語等を使って自分の言葉でまとめる
・自分の変容を振り返る　等

基礎基本の学力・話す聞く力

あたたかな学校・学年・学級集団